



ひょうごの農林水産技術

— 農業編 —

No. 223 2023年(令和5年)11月

特集 冬季に活用したい開発技術

冬季の栽培技術としてハウスの暖房コスト低減や凍害対策等に取り組んできた。ここでは、ハウスの温度管理上困難であったイチゴの同一ハウス内複数品種栽培技術や、低温で肥効の遅れる有機質肥料の効果的施肥技術、及びスクミリンゴガイ越冬可能地域の早期予測技術を紹介する。



食味自慢の「あまクイーン」、
培地加温が効果的



培地加温によりイチゴ株が大きく、
花数も多い(右ベッド)



コマツナに対する有機質肥料の効果的な冬季
施肥技術 右：早期元肥施用後の被覆加温



スクミリンゴガイの成貝(左)と卵塊(右)

目

特集 冬季に活用したい開発技術

- 1 培地への加温で県産イチゴ「あまクイーン®」の厳寒期の草勢を維持……………2
- 2 コマツナに対する有機質肥料の効果的な冬季施肥技術……………3
- 3 スクミリンゴガイ越冬可能地域の早期予測……………4

次

研究成果の紹介

- 1 処理法の違いがコマツナの農薬残留に与える影響について……………5
- 2 肥育牛が安定して飼料を摂取する給餌方法……………6
- 3 ジャム及び佃煮の水分活性予測モデルの開発……………8

普及現地情報

- 新たな強敵「ビワキジラミ」との戦い……………10